

私たちがキリストの奥義を語れるように祈ってください。

コロサイ4:3

2014(26)年 週 報

10月5日
第4聖日
3372号

「教えられた言い伝えを守る」
(IIテサロニ二連続講演第25回)

聖言

そこで、兄弟たち。堅く立って、私たちのことば、または手紙によって、教えられた言い伝えをまもりなさい。
テサロニケⅡ2:15

礼拝の恵み 第一章 第七部 礼拝の仕方

サウロに代わる王としてエツサイの子らの一人に油をそそぐためにサムエルをたかわしたもうとときに、神はこの天を教えたもうた。家族の長子エリアブが出たとき、サムエルサレムは心の中で「自分の前にいるこの人こそ、主が油を注がれる人だ」と考えた。しかし神は彼に「彼の容貌や、背の高さを見てはならない。私は彼を退けている。人が見るようには見えないからだ。人はうわべを見るが、主は心を見る。」(サムエル一六ノ七)と言われた。我らの主はこの真理をその群衆の心に刻まれた。自分たちの宗教の沢山の礼典を外面的に守ることに極度に厳格だったパリサイ人に向かつて。主は「あなたがたは、人の前で自分を正しいとする者です。しかし神は、あなたがたの心を存知です。人間の間であがめられる者は、神の前で憎まれ、嫌われます。」(ルカ一六ノ一五)と言われた。どのクリスチャンもどれほどこの点について自分の心を検討すべきであろう。礼拝のための美しい賛美も実に心を込めて歌い、会衆の礼拝をすぐれた聖書的な言葉で宣べ、しかもそれが神の耳には達せず、あるいは神の認証を得ないという場合が、悲しいことであるが有り得る。礼拝の性質は礼拝者の靈性によって決定される。礼拝であるが見えるものが、実際には単なる「肉において見栄を飾ろうとする」にすぎず、神の前では忌み嫌われるものである場合がある。それゆえ、本當に神を礼拝しようとするならば、靈的な諸性質とし方を考えなければならぬ。

(Apgibus「礼拝」より)

イエス・キリスト聖成伝道教会・東洋聖書神学院・聖成基督教団

牧師 山本 稔 〒653-0812 兵庫県神戸市長田区長田町1丁目2番6号

電話：FAX (078) 691-1419 郵便口座番号 01170-3-20374

<http://jchec.org/>

minoru_yamamoto@hotmail.co.jp メール m7-inoru@ezweb.ne.jp